

新年のごあいさつ



会長 堀川 馨



1999年2月に設立された福井県日独友好親善協会は、その年の10月にドイツ連邦共和国ヴィンゼン市で開催された、県とハールブルグ郡およびヴィンゼン市との友好協定調印式に参加しました。また、2000年4月21日には、ドイツ連邦共和国大統領から栗田知事に対し「国際青年の船・婦人の船」事業をとおして、日独交流や友好親善に永年にわたり寄与した功績により、ドイツ連邦共和国功労勲章大功労十字星章が授与されました。継続は力なりと申しますが、27年間にわたるこの事業を通じて福井の青年・婦人の方約600名がドイツを訪問し、両国の友好親善に大きな成果を納めてきました。そのことが、ドイツ政府に認められたのは誠に喜ばしい事だと思えます。

また、この功労章の授与式にあわせヴィンゼン日独協会のボド・ベッケドルフ会長をはじめヴィンゼン市の親善訪問団の方15名が来県され、県国際交流会館で歓迎レセプションやホストファミリーとの交流が行なわれました。最終日には日独友好協会のメンバー30数名と一緒にバスにて大野・越前大仏・大本山永平寺を訪ねました。2人のボランティアに案内されて訪れた大野城では、丁度桜が満開でその素晴らしい眺めに、皆さん感激もひとしおでした。

今年もいろいろな行事を通じて、日独友好と会員相互の親睦をはかりたいと思いますので奮ってご参加ください。

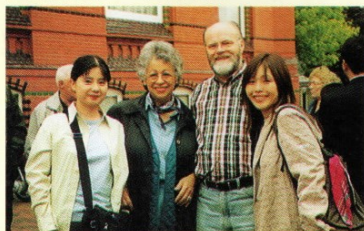
今年、国際青年の船でドイツへ訪問され、新たに当協会にご入会された方2名に「初めてのドイツ」ということで寄稿していただきました。

村上 弥生

憧れのヨーロッパ。この地に、4日間もホームステイができる。ホストとのドイツの生活を満喫するぞ。一番心配だったのは会話であった。ホストのママは英語が堪能だが、パパはほとんど話せない。ママと私が話をしていると、パパは私たちの話をじっと聞いてくれる。時折、ママが通訳すると、こちらを向いてうなずいてくれる。パパの優しさが伝わってくる。パパとは片言の英語とジェスチャーで会話をする。じっと目を見て話さないとなかなか通じない。しかし、お互いに理解しようという気持ちがあれば通じるものである。言葉ではなく、気持ちが大切なのだと改めて感じた。今回の旅では、ホストの温かさに触れることができとてもよかった。



長谷部 久美子



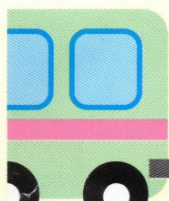
私にとってドイツは自分の中で身近に感じていた国だった。両親が仕事でドイツへ行ったり、ドイツ人と仕事をしていたこともあり他の国よりも親しみを持っていた。しかし、百聞は一見にしかずの言葉どおり、自分の目で見て自分の肌で感じたドイツには、一言では言い表せない魅力があった。街並みやそこに暮らす人々から醸し出される雰囲気には、日本では感じる事のないゆったりとした時間の流れとあたたかな心を感じ、とても心地よい時間を過ごすことができた。また人々とも、言葉を越えて心と心を通いあわせる事ができたことは、私にとってとても大きな宝物となった。一生忘れえぬ大切なものを得ることができた貴重な訪問になったと思う。



私は鯖江市のドイツ語講座（村田幸子先生）を通じて平成12年4月、ドイツ・ヴィンゼン市親善訪日団のアンネ・ズーカー、マンフレート・ズーカーさんご夫妻を我が家にホームステイとして招待しました。この機会をいかしてヴィンゼン市民のヴェルナー・カットナーさん、フェンツト・スクートリクさん、Dr.ヴォルフガング・ガングヌスさん、ならびにアンネ・ズーカー、マンフレート・ズーカーさんご夫妻を鯖江・独語講座に特別ゲストとして招き、受講生の皆さんと一緒にヴィンゼン市およびドイツの日常生活などについて話し合うことができ、楽しい一時をもつことができました。



会員の皆さん！鯖江市ドイツ語講座にお入りになりましたか Die SABAE-SCHULE ist ganz schoen was los ...



ウィンゼン独日協会との交流バスツアー

平成12年4月23日(日)

川畑勝也



大野市亀山公園にて

当日の午前中、日独友好親善協会総会がユウ・アイふくいで開催されました。その後、私達協会会員待望のバスツアーが、ボド・ベッケドルフ（ヴィンゼン市親善訪日団団長）外14名のヴィンゼン市民の参加をえて、北陸の小京都と呼ばれる大野市を目ざして一路出発しました。当日は、私達を歓迎するかのようには晴れ渡りました。



勝山市越前大仏にて

当会員の中には、訪独時にホームステイで知り合ったヴィンゼン市民の方もおられ、片言のドイツ語を駆使して身振り手振りの汗だくで会話をしたり、又「春の小川」を全員で合唱するなど、楽しい行程でした。



大本山永平寺にて

ゆったりと時が流れる中、越前大野城では、澄んだ空気と日本の象徴「桜」を背景に、皆さん写真を撮っていました。カメラのシャッターが押されるたびに、ドイツの方は「ブンダシェーン」を連発しておりました。

行程の最後には、永平寺を参拝しました。お坊さんの説明を、通訳の村田さんは、ドイツの方に理解してもらおうと懸命に努力していました。日本人の心のふるさと「禅」を、少しは理解してもらえたのではないのでしょうか。

最後に、今後も少しずつ日独間の友好の架け橋が、本協会を通じ深まっていくことを期待しています。

日本文化に魅せられて

ポール・アニカさん (POHL ANNIKA) 福井大学留学生



私は、2000年10月に、福井大学で日本学を学ぶために福井にやってきました。専攻は、比較言語学です。もちろん、日本は、初めてです。ハンブルクで、4年間、日本語を学び、東洋の日本という国について、興味をもったからです。現在、他の3人のドイツ人留学生と共に、福井大学留学生会館で、学校生活を過ごしております。

私の故郷は、デュセルドルフの近郊で、メーエルスという小都市です。ベルギーとの国境に近く、ライン川も近くに流れ、緑の美しい町です。

私は、日本の伝統と文化、特にKIMONOについて興味をもっております。日本人＝着物というイメージが、まだ欧米人の中でぬけきってないのかもしれませんが。日本食は、SOUMENが大好きです。肉は、好きではなく、ベジタリアンです。スポーツは、社交ダンスが好きで、KARATEを少しやっております。

ハンブルグは、雪がふりませんが、雨はととても多いです。福井は、雪が降るときいておりますので、スキーにチャレンジしたいです。

目下の悩みは、来たばかりなので、週末は、いつも勉強していることです。余裕ができれば、福井でいろいろな事を体験してみたいと思います。

お友達になってください。

青年の船30周年・ 婦人の船25周年記念事業開催 高島修次

平成12年11月11日 (13:30~17:00) に福井市内のフェニックスプラザで昭和46年から平成12年の「同船の参加者」の有志約650人が集まり、福井県主催で開催されました。

栗田知事がこの事業の概要と意義を説明し、団員の受け入れ先で活躍されている各国からのゲストに対して謝礼を述べ記念品と感謝状を贈りました。ゲストとしてドイツからは、ヴィンゼン独日協会会長ボド・ベッケドルフと在大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事クラマー領事が出席されました。

Mr. BODOの人気は高く、会場のあちこちのテーブルを巡って旧交を懐かしむ度に歓声があがっていました。

これまでにドイツには青年の船団員として1,128名(福井県から551名) 婦人の船団員として76名(福井県から76名)が訪独し、友好と親善活動を行なってきました。自然の中に溶け込

んで整然としている美しい町並みや実直健全な人間性に触れて、県内には多くのドイツファンが誕生してきました。昭和57年からはドイツの親善団が福井を訪問するようになり、県内のドイツファンの家庭で「ホームステイ」を体験して日独相互交流の輪が広がっています。

来年からは交通手段を「船」から「飛行機」に変更するとのことですので、訪問先での活動時間に余裕が出来て「楽しみ」も倍増出来そうです。



ヴィットマンハイコー氏講演会

平成12年12月16日(土)

国際交流会館

会員の林主計さんの紹介もあり、金沢市在住のテュービンゲン大学文学博士の講演会が開催されました。「ドイツから見た日本」と言うことで講演をしていただきました。



大変ユニークなお話で、ドイツ人から日本人はこんな風に見られているのかと、驚かされるような話もたくさん聞くことができ、この日集まった22名の会員は一喜一憂し、大変充実した時間を過ごすことができました。会の終盤には、傍聴者から色々な質問が、ヴィットマン氏に投げかけられ、同氏もドイツの文化等を、一生懸命分かりやすく答えようと努めていた様子が印象的でした。



けられ、同氏もドイツの文化等を、一生懸命分かりやすく答えようと努めていた様子が印象的でした。

2000国際交流ジャンボリー・イン福井への日独協会ブースの出展

平成12年10月28・29日 国際交流会館

渡辺真信

会員の事前打ち合わせにより、昨年に引き続き展示ブースへ出展を行いました。福井県とハールブルク郡・ヴィンゼン市の友好協定調印式の模様や、4月にヴィンゼン市の方々が来福された時の写真には、熱心に見入る人の姿も見られました。またドイツのワインやお菓子の試飲試食は今年も大変好評で、そのおいしさにつられて(?)、その場で協会への入会を決めた方もおられました。



ケストナー駐日ドイツ大使夫妻来県

(ワールド・パートナーシップ・フォーラムin福井)

平成12年11月24・25・26日

各国駐日大使を集めてのワールド・パートナーシップ・フォーラムin福井が県国際交流会館で開催され、ケストナー駐日大使夫妻が来県されました。フォーラムには、約10名の当協会会員の方も参加されました。各国の大使から活発な意見が出され、フォーラムは成功裡に終了しました。また、ケストナー大使夫妻は、大本山永平寺等を視察され、福井県の伝統や文化に感心

しておられました。



◀フォーラムの様様



一番右がドイツ大使▶

発行：福井県日独友好親善協会

〒910-8580 福井市大手3丁目17-1 福井県県民生活部国際課内

TEL：0776-20-0294 FAX：0776-22-1702